

第03講 厳格区別、「自動詞」と「他動詞」

「英文法」の学習において、「名詞の認識」「形容詞の理解」「自動詞と他動詞の厳格区別」「副詞の疎外」が、はじめの「関門」です

これらを乗り越えれば、けっこう見えてくるものがあります

また、「be 動詞」と「一般動詞」の区別なんて、ほとんど意味がありません
（「be 動詞」は「特殊な自動詞」というだけのことです）

本講では、「自動詞」と「他動詞」の違いを、「認識・理解」します

自動詞	「主役」の「動作」のうち、「他者」を巻き込まない、 「主役」単独の一人だけの「動作」をあらわす
他動詞	「主役」の「動作」のうち、 「他者（対象物）」を「巻き込む動作」をあらわす

I 「自動詞」は2種ある

「自動詞」には、①「自動詞」だけで意味が完結し「補役」の助けを必要としない「自立動詞」と、②「補役」により「主役」を説明・補完する「補完動詞」の2種があります（従来の完全自動詞だ不完全自動詞だという空疎な名称には言及する価値もありません）

これら、「自立動詞」と「補完動詞」の区別を確実に認識しなければなりません

①「自立動詞」は「主役の単純な動作」であるのに対し、②「補完動詞」は「主役」の「職業・地位・内容」を④「名詞補役」で、「状態・性質」を⑤「形容詞補役」であらわすという大きな違い、すなわち、①②の「補役の有無」や、④「名詞補役」か⑤「形容詞補役」かという重大な特徴を確実に認識・理解する必要があるのです

「自動詞」のまとめ

①	自立動詞	「主役」の単純な「動作」をあらわす 「補役」は必要ない
②④	「補完動詞」＋「名詞補役」	「主役」の「職業・地位・内容」をあらわす
②⑤	「補完動詞」＋「形容詞補役」	「主役」の「状態・性質」をあらわす

本書では、「自立動詞」の『文。』を「自立文型」と呼び、「補完動詞」の『文。』を「補完文型」と呼びます（従来の第Ⅰ文型だとか番号を振って何の効用があるのでしょうか）
（ついでに、略しまして、④は「名補文型」、⑤は「形補文型」と呼ぶべきでしょうね）

①「自立動詞」の例文です

A g h o s t i s .	「幽霊は存在する。」
T a r o r u n s .	「タローは走る。」
H a n a k o s l e e p s .	「ハナコは眠る。」

②「補完動詞」の例文です

① T a r o i s c a p t a i n . 「タローはキャプテンです。」
名詞補役（職業・地位）

② T a r o i s k i n d . 「タローはやさしいです。」
形容詞補役（性質・状態）

ここで、「r e m a i n」という単語を辞書で引いてみて、「補完文型」を確実に実感・認識してください

II 「他動詞」には「対象物」が伴う

「他動詞」には、「関渉動詞」「授与動詞」「拈術動詞」の3種がありますが、本講の段階では、「関渉（かんしょう）動詞」のみを確実に認識・理解してください

「授与動詞」は第18講で、「拈術（かくじゅつ）動詞」は第19講で学習します

「他動詞」は、「主役」が「他者（対象物）」に「働きかける動作」をあらわし、その中で、「対象物・目的物」＝「目的役」がひとつで、最も基本的な「他動詞」を「関渉動詞」と本書では呼び、「関渉動詞」が使われている『文。』を「関渉文型」と呼びます（一般には、第Ⅲ文型といいますが、番号呼称には辟易ですね）

T a r o <u>k i c k s</u> <u>a b a l l</u> .	「タローはボールを蹴る。」
関渉動詞	目的役

「他動詞」は、「動作の対象」としての「他者」「対象物」「目的物」、『文。』の「文役」でいう「目的役」が必要なことをしっかり認識・理解してください

次講では、「品詞」の理解のための先陣ともいうべき、「形容詞」についてみましょう